

米空軍戦闘機千歳基地訓練移転反対全道集会の開催

今回で8回目となる米空軍戦闘機の訓練移転が、12月5日から16日までの間、千歳基地において実施されることを受け、連合北海道は12月4日、千歳市において、「米空軍戦闘機千歳基地訓練移転反対全道集会」を約350名の参加のもと開催した。

主催者を代表して挨拶にたった連合北海道杉山元事務局長は「この移転訓練は今年1月にも行われ、1年間に2度も行われるという異常な状態だ。矢臼別演習と同様に沖縄の痛みを分かち合うという名目で行っているが、全く負担軽減になっておらず断じて認められない。PKOについても駆けつけ警護が閣議決定されるなど、安倍政権の暴走から平和が危ぶまれる状況となっている。連合北海道としてもしっかりと平和の取り組みを強化していく。」と訴え、決意を述べた。

引き続き連帯挨拶にたった北海道平和運動フォーラム佐藤環樹事務局長は「この訓練は安全性が確保されておらず、諸外国にとっては脅威であり、沖縄の負担軽減にもなっていない。また、年々軍事予算が拡大し、本当に必要な予算が縮小されるなど、全ての面においてこの訓練については反対だ。」と述べた。



胆振地協佐々木修司会長代行による集会決議が採択されたのち、石狩地協高島均会長代行の訓練移転に怒りを持って抗するとした団結ガンバローで集会を締めくくった。

終了後、参加者は市内をデモ行進し、訓練移転反対や、米軍基地を整理・縮小せよなど、市民にアピールし理解を求めた。